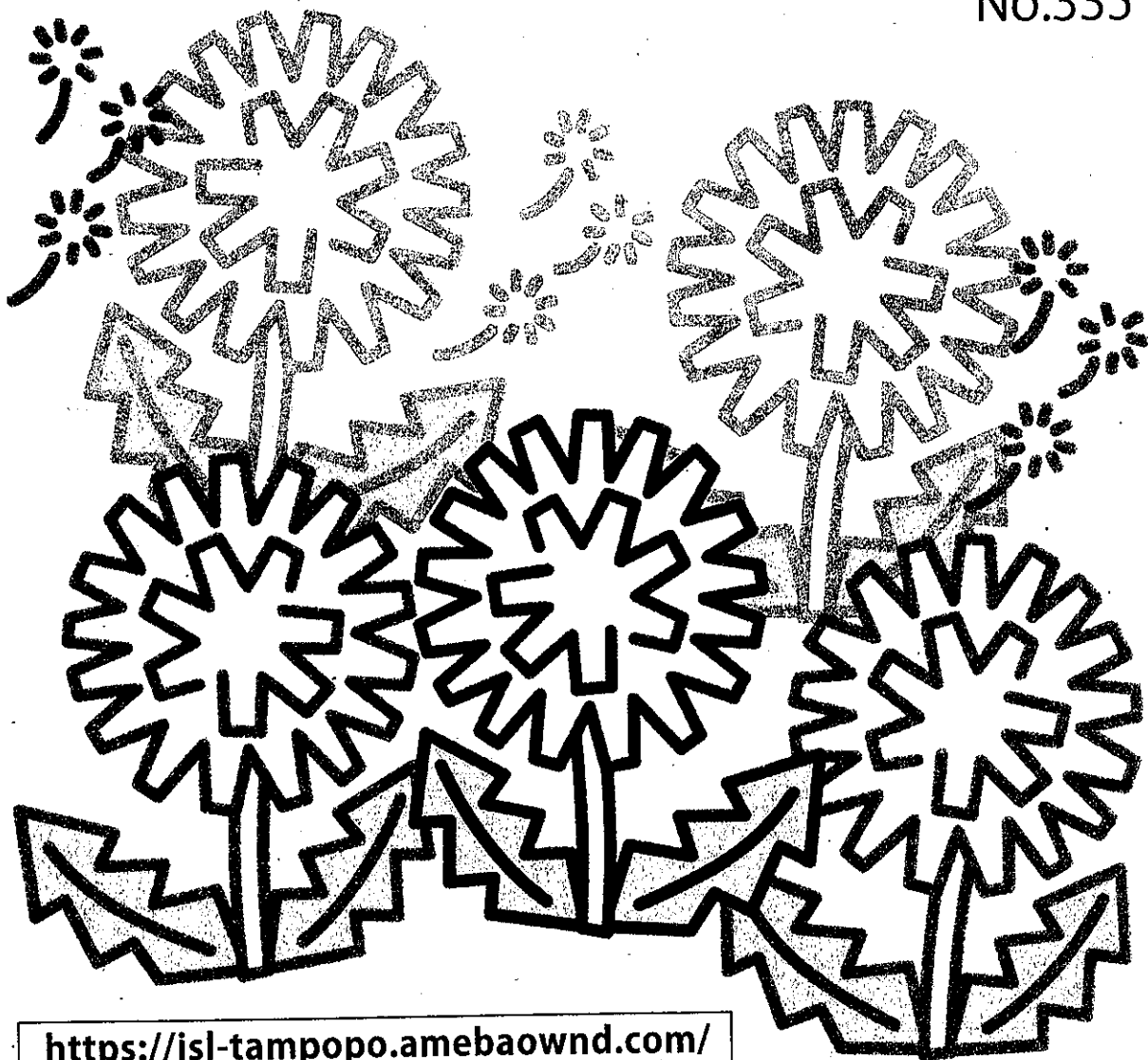


たんぽぽ

2023年度第

6号

No.335



<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>



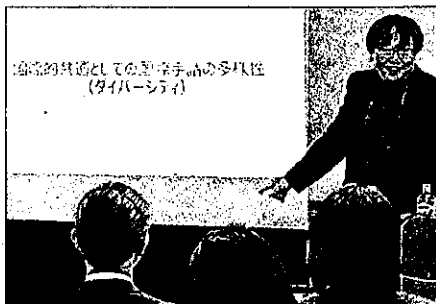
2023年度第5回講演会 (1月30日しゃれなあと)

「国際手話とデフリンピック」

砂田 武志 氏

一般社団法人日本国際手話通訳・ガイド協会 代表理事
一般社団法人デフセーリング協会 代表理事

来年2025年のデフリンピック開催に合わせて国際手話についてお話を聞きました。外国で国の違うろう者同士が通じ合うためには、やはり国際手話が必要になりますが、まだ発展途上にあり、その普及率は低く、資格を持つ通訳者もかなり少ないそうです。言語学や映画界の専門用語はあるけど、スポーツ界の用語は遅れているとの事。手話は自分の国でしか通じませんが、国際手話は世界共通の手話です。今、デフリンピックやろう者の国際会議ではその需要が出ています。



パラリンピックはみんな知っていますが、デフリンピックの認知度は全世界の1割程度。大会を知ってもらうためにも、異国選手間のコミュニケーションにも必要になりますね。

参考に、世界ろう者会議、国際ろうガイド会議(24年千葉)、国際ろう芸術展(24年東京)、国際ろう歴史学術大会(27年千葉)など、

日本での開催が予定されています。国際手話の共通性多様化が求められている事で、いろんな人との交流ができます。サークルたんぽぽの活動に「国際手話班」があります。世界にも視野を広げられるよう、参加してみませんか。



今年元日に起きた能登半島地震、被災地へのサークルの皆様からの義援金は27,835円でした。ご協力ありがとうございました。石川県に振り込みしました。

義援金送金口座：北國銀行 城南支店 普通預金 243689

名義：石川県手話通訳制度を確立する推進委員

イシカワケンシュワツウヤクセイドロカクリツスルスイシンイイン

'24. 2. 18

都サ連通信

発行 東京都手話サークル連絡協議会
代表 高田 直樹
http://tosaren.jp
tosaren_info@ybb.ne.jp
FAX : 03-3961-2445

「第33回ろう教育を考える全国討論集 in あきた」の報告会について

参加されたいろう・難聴教育研究会代表野崎誠氏と事務局長森崎恵子氏からお話をお聞きすることができました。

ろう・難聴教育研究会という名前はご存じでしょうか？この名前を初めてお聞きする方もあるかと思いますが、この会は「手話がベースのろう教育を考える」ことを目的に、約46年前に発足したTC研(Total Communication 研究会代表伊藤政雄)が前身であり、2003年から名称を変更したとのことです。

全国討論集は、2014年8月東京日本大学文理学部でも開催されました。その時は高田も都サ連からの実行委員として楽しく活動したことを思い出しました。もう10年近く前になるのですね。

今回の報告会で非常に残念だったのは、一般参加者が7名(欠席5名)ととても少なかったことです。

野崎さんのお話

自身の自己紹介から始まり、基調報告、講演会、ディスカッションについて幅広く報告して頂きました。

基調報告は「ろう教育を考える全国協議会」事務局長堀米泰晴氏で、内容は『ろう教育の歴史、ろう教育の運動、難聴児に関わる国の動きを話されました。人工内耳の技術が発展すると、本当に手話は絶滅するのか？という問いかけや、難聴児に対して、厚生労働省と文部科学省は、難聴児早期支援を早急に考えて欲しいと熱く語られました。』でした。

また、新生児スクリーニングの発達で乳幼児の支援、人工内耳と手話の選択、手話言語の法制化の必要性なども話題にあがったようです。

秋田県立リハビリテーション精神医療センター耳鼻咽喉科医師中澤操先生は、『聞こえない・聞こえにくい子どもの早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携を考える』をテーマに話をされました。中澤先生は、聞こえる人が多数派の社会の中で、聞こえない人のセルフアドボカシーをどう確立していくか、お話をされたそうです。講師から日々の草の根運動が功を奏しているようで、人の繋がりの大切さについてお話しされました。

分科会は、野崎さんが所属している団体、しゅわえもの絵本読み語り活動の成果として『ろう児、難聴児とその関係者のためのオンライン手話取得支援』について話をしたとのことです。

野崎さん自身は、手話で絵本の読み語りを実践していて、絵本に興味を持ち知的好奇心が育つ、読書好きになる、視野が広がる子どもが多くなるというお話でした。また、東京から全国に広げたいとも話されました。

森崎さんのお話

自己紹介、そしてお嬢様が高度難聴児で2歳半の時に補聴器を装着したこと、国際障害者年の翌年に、この世に生を受けたことに不思議な縁を感じると話されました。

母と子の教室「トライアングル」、難聴学級「聞こえとことばの教室」に通い口話の訓練を受けました。当時は口話教育一辺倒で手話などとんでもない時代で、補聴器はポケット付きのベストを着て、そのポケットに箱型補聴器を入れて使うというものでした。小学校入学時、先生にFM補聴器を使ってほしいと頼んだら、快諾をしてくれたとのことです。小学校低学年には、友達に「50音全部話してみろ」などと言われるいじめもあったようです。そんなお嬢様が、セルフアドボカシーを身につけ、就職するときに、「耳が聞こえないので、机の上に電話は置かないでほしい」、名刺に「私は耳が聞こえません」と書いたり、「会議の時には、ホワイトボードを使ってほしい」など、上司と話したとのことでした。

2023年の4月からろう・難聴研究会代表に野崎さんが就任、事務局長としてお手伝いをしているとのことでした。お嬢様の子育ては、苦しかったことも沢山あったとは思いますが、森崎さんのお話を聞いているとこちらがエネルギーをもらうことができました。

お二人のお話からろう児の将来を考える教育の難しさを感じました。有り難うございました。

(報告：高田)

参加者募集中

第25回 オンライン 東京都のろう教育を考えるフォーラム

主催：東京都のろう教育を考える会

日時：2024年3月3日(日) 14時00分～16時30分

方法：オンライン(ウェビナー) 参加費：1,000円

今、改めて「ろう教育」の原点に立ち返り、聞こえない・聞こえにくい子どもたちの未来をともに考えるフォーラムを開催します。当事者をはじめとする関係者の皆さま、これから関わろうとする学生の皆さまも、是非、ご参加ください。

テーマ「ろう教育の原点に立ち返る」



講師 山根 昭治氏
特定非営利活動法人ろう教育を考える全国協議会理事長



講師 菅原 仙子氏
東京都立葛飾ろう学校主任教諭幼特部担当
(乳幼児教育相談担当)
言語聴覚士

●主催：東京都のろう教育を考える会
●加盟団体：公益社団法人東京聴覚障害者協会 聴覚障がい者支援推進委員会、東京都手話通訳問題研究会、東京都手話サークル連絡協議会、ろう・難聴教育研究会、ろう教育の未来を考える会

① 下記のURLからお申し込みください。
<https://forms.gio/SSV8cdH8R9V9v2V9> (右のQRコードからも)

締め切り：2024年2月25日(日)

② 参加費1,000円の振込は、下記口座へお願いします。
三井住友銀行 渋谷駅前支店 口座番号234 口座種別5448188
名義 東京都のろう教育を考える会 会長 田原道幸

※振込手数料は自己負担です。参加費の返金はありません。
③ 受付後、オンラインURL等を2月下旬頃、ご連絡します。

●参加申込み・お問い合わせ先 東京都のろう教育を考える会 torakou1992@gmail.com
●詳細については、東京都聴覚障害者連盟HPをご覧ください。

申込みQRコード



「能登半島地震から一か月」

都サ連代表 高田直樹

1月1日に発生した能登半島地震は、2月1日で発生からちょうど一ヶ月となります。元日を襲った最大震度7の揺れは240人の命を奪いました。亡くなられた方のご冥福をお祈りすると共に、被災に遭われ避難されている方々の健康をお祈りしています。

いまでも約1.4万人の人が避難所での生活を余儀なくされています。石川県の能登地方では道路や水道といったインフラやライフラインが壊滅的な被害を受け、現在もまだ約4万戸が断水状態と言われています。被災地ではなお過酷な状況が続いています。

1月5日に能登半島聴覚障害者災害救援中央本部から東京都聴覚障害者連盟(東聴連)に被害状況や支援金や義援金の受け入れに関する情報が届きました。東聴連から被災した聞こえない仲間や手話関係者を支援するために、都サ連に協力の依頼がありました。

1月15日には都サ連事務局から「都サ連加盟サークル並びに会員各位」と題し、都サ連代表高田の名前で加盟サークルに経過説明と、ご協力の依頼の資料を添付しお送りしました。是非もう一度ご覧下さい。

一ヶ月近く経った1月28日には、東京都聴覚障害者連盟災害対策部の特別【緊急】企画で、能登半島地震のその後と題して、震災直後の1月2日から現地で聴覚障害者の安否確認の支援をしてきたプラスヴォイス社長三浦宏之氏から話をお聞きしました。悲惨な状況だけがクローズアップされていますが、未来に向かってできる支援を考えていきたいですね。

【プラスヴォイス 三浦宏之社長のお話】

1月2日聴覚障害者情報提供施設に到着。施設長藤平淳一氏の代わりに、バイクで聴覚障害者の安否確認に向かう。道路が寸断され物が届かない。珠洲市に向かって行くことと通行止めの表示がないのでそのまま進むが途中で段差のために通れなくて引き返し、また別の道を探すことで何倍も時間がかかった。

断崖がせり上がり、マンホールが飛び出すものすごい光景、行く前から予想はしていたが、能登地方は家が古く黒い瓦屋根が重いために全壊・半壊の家が多い。

安否確認に向かう道中、被災地泥棒と間違えられて警察官に呼び止められることがあった。ヘルメットを見せると信用された。住所を頼りに家を探し安否確認をしているときも、警察官に呼び止められる。同じように泥棒に間違われたが、ヘルメットを見せて信用された。警察官と一緒に大声で確認してくれるが、ろう者にこちらの呼びかける声が聞こえることはない。

避難所では飲料水や食料のアナウンスに気づかない。避難所では聴覚障害者だけではないので、行政の情報保障の対応にも限界がある。あるろう者は、「聴者に助けを求めようとしても誰もが大変なので申し訳なく思う。」と話していたと。

手話も通じない、筆談も通じないろう者の情報コミュニケーションの支援が大切。障害者専門アドバイザー松岡先生から1.5次避難所にろう者を集めることなどのアドバイスもらった。各自自治体から県に手話通訳者を要請するが、忙しくて手が回らない。行政は安全が確保できないと派遣をすることができない。行政から各避難所に1.5次避難所の周知がされていない。珠洲市の障害福祉課も被災しているので、聴障者だけに特別に何かすることはできない。(1・5次避難所とは、ホテルなどの2次避難所に入るまで一時的に被災者を受け入れる施設)

東日本大震災の例では、障害者手帳を持っている聴覚障害者は、各県の協会会員の10倍はいる。協会員以外のろう者の支援も考える必要がある。

仮設住宅は自分の自治体の仮設住宅に入らなければならない。難しい罹災証明、保険手続きをろう者にどのように説明するのか。「聴障者は音声認識アプリでろう者に文字情報を伝えるが、ろう者は文字を打たなければならない」差別ではないのか。

遠隔手話通訳は2016年の熊本地震の時にはほとんど使われな

かったが、今回の能登半島地震ではかなり使われた。(プラスヴォイスは、24時間対応の無料の遠隔手話通訳を実施した。)

高齢者に対する支援の難しさ。普段からスマートフォンなどの使用方法を伝えてほしい。

【東聴連越智事務局長のお話】

奥様と金沢にいたときに地震に遭ったとのことで、具体的なお話を聞くことができました。石川県の聴覚障害者協会と情報提供施設は連携をとれている。東京の場合はどうか？東聴連、派遣センター、情報文化センター、手話サークル、東通研の連携がバラバラで今後来るであろう南海トラフ地震の時がとて心配である。

【荒井善康災害対策部長のお話】

『自助、共助、公助、近所』、「近所」これが大切である。コミュニケーションの支援は近所から!!

「2023 たましろフェスタ」報告

2023年10月29日、リフレッシュ氷川にて「2023 たましろフェスタ-たましろのなかまを応援しよう!-」が開催され、201名の方にお越しいただきました。たくさんのご参加ありがとうございました。

私は4階の展示・クラブかたつむりのなかまのゲームコーナーを担当していたのですが…ゲームの盛り上がったこと!!花びらのように飾られている段ボールをうまく弾いてボールを飛ばし、入れ物に入れるというゲームは、本当に綺麗でそれでいてなかなか難しく、私は10個中6個成功という成績でした。

展示を見ながらのクイズも一生懸命に取り組んでくださり、みなさんの関心の高さがとてもありがたく感じました。私は参加できませんでしたが、午前中の長井恵里さん、午後の丸山正樹さんの講演、またなかまの発表も好評をいただきました。機器トラブルがありご参加のみなさまにご迷惑をおかけしました。今後改善してまいります。

たましろの郷は2023年10月5日に建設資金等の借入金を完済することができました。20年もの間みなさまからたくさんのご支援をいただき、本当にありがとうございます。一方で施設の修繕箇所や、なかまの生活のために必要な設備の導入など、新たな課題も出てきています。今後も楽しい企画など考えてまいりますので、応援をよろしくお願い致します。(報告:神保)

都サ連が2027年に設立50年を迎えます

担当者会議ではすでにお伝えしていますが、1977年に都サ連が設立されて、2027年に50年を迎えます。なんと半世紀です。そこで今までの活動を振り返り、「記念誌」を作成するプロジェクトを昨年10月に立ち上げ、毎月1回Zoom会議を開いています。

この50年間、都サ連としては、聴覚障害のある皆さんと、いろいろな活動をしてきました。たましろ建設、耳の日記念文化祭開催など、多種多様な活動に携わってきました。ただ、そういった活動の記録を今まで「成果物」として記録し、共有したことがありませんでした。今回、2027年に向けて過去の活動をまとめておこうと、動き出しました。

現在は4人のメンバーで議論しています。是非、この貴重な機会に参加してみませんか？

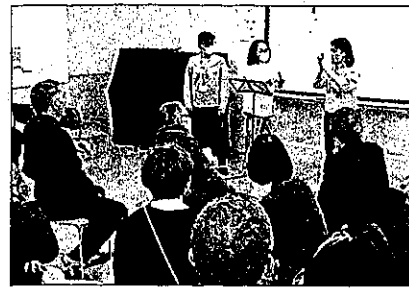
都サ連の50年は、東京における聴覚障害者関係の運動の50年とも言えます。50年を一緒に追体験しませんか？協力していただける皆さんの参加をお待ちしています。

(仮)50周年記念企画担当 堀

2つの全体会

2月6日 グループ対抗ゲームを楽しみました。日本で温泉地の数が多い都道府県の第1位は「北海道」ですが、では第3位はどこか？ヒントのいくつかの県から選びます。

答えは「新潟」でした。ちなみに第2位は「長野」。他にも米の産地第1位は「新潟」。第3位は？答えは「秋田」。第2



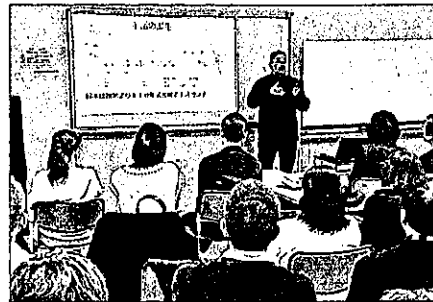
位は「北海道」。などなど。トリビアですが盛り上がるゲームでした。

3月5日前半は岡山手話表現クイズ、後半はグループに分けて有名人当てゲーム。1人に有名人の事を身振りCLで表現して答えてもらうのですが、最近の野球選手やタレントの名前はTVを見ていないとわかりませんでした。



例会ミニ講演

2月20日 ろう者メンバーのTさんによる「ろう学校」「サークル」についてのミニ講演を行いました。これまでのサークル活動経験から、手話サークルの役割、周りとの関係を考えていく事で、互いの理解「通じる機会」が増えると話されました。



耳の日記念文化祭

2月24日(土)25日(日)、毎年恒例の第53回耳の日記念文化祭が、三田の東京都障害者福祉会館で行われました。両日ともたんぽぽメンバーはたましろの郷後援会、世聴協、都サ連のそれぞれの要員に参加しました。皆さんお疲れ様でした。

2日目はたましろの郷のなかまも来ました。コロナ禍以降で多数のなかまの参加は4年ぶり。1対1のボランティアも復活。久しぶりの顔、新しい顔も、なかまたちは発表会場で一人一人発表披露しました。



編集後記

暖かくなったり、寒くなったり… この先には花粉症もありますね。コロナも油断できません。荒々しい季節ですが新年度を迎えるこの時期、落ち着いて過ごしましょう <YU>

今後の予定

※予定は都合により変更になることがあります

●4月

2	火	例会: 全体会	19(金)相談会
9	火	例会: 全体オリエンテーション	
16	火	例会: 班活動	
23	火	例会: 学習	
30	火	例会: 講演会 しゃれなあとオリオン	

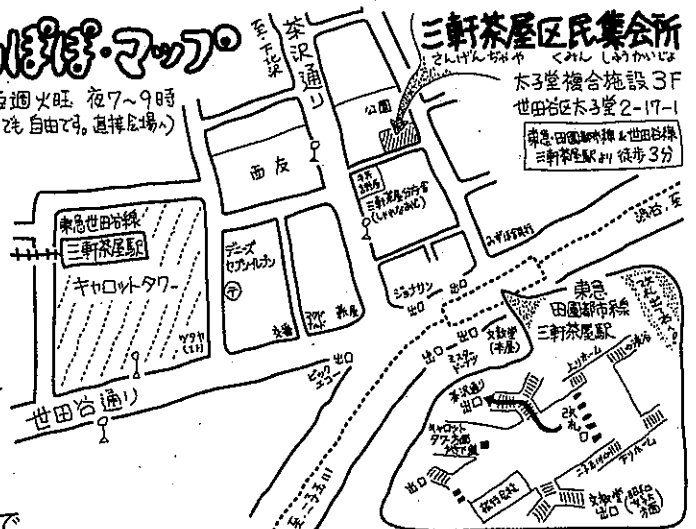
●5月

7	火	例会: 全体会	17(金)相談会
14	火	例会: 学習	
21	火	例会: 班活動	
28	火	例会: 学習	

・ 活動時間 19:00~21:00

たんぽぽマップ

例会: 毎週火曜 夜7~9時
(見学はいつでも自由で可。直接会場へ)



手話サークル機関誌 たんぽぽ

発行日: 2024年3月26日(火)

発行: 手話サークルたんぽぽ

発行責任者: 大原 和男

たんぽぽホームページ

<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>

講演会 問い合わせ先:

世田谷区教育委員会事務局 生涯学習課

Tel. 03-3429-4259 (Fax.03-3429-4267)

講演会以外の問い合わせは直接例会会場まで